

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	苫小牧市地域水産業再生委員会
代表者名	委員長 吉田 政芳

再生委員会の 構成員	苫小牧漁業協同組合、苫小牧市役所
オブザーバー	北海道胆振総合振興局

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の範囲：苫小牧市内全域 ・漁業の種類：ほっき桁曳網漁業(96名) <li style="padding-left: 20px;">：かれい刺網漁業等(63名) <li style="padding-left: 20px;">：さけ定置網漁業(12名) <li style="padding-left: 20px;">：かにかご漁業(48名) ・漁業者数：正組合員数 128名
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

苫小牧地区の漁業は10トン未満の漁船を中心とした沿岸漁業が中心で、ほっき桁曳網漁業、かれい刺網漁業、さけ定置網漁業、かにかご漁業が行われている。

(平成25年度総水揚げ量8,600トン)

その中でも日本一の水揚げ量を誇る、ほっき貝については「苫小牧市の貝」にも制定されており、「苫小牧産ほっき貝」として地域団体商標登録を取得している。ほっき貝の年間漁獲量は約700トンで、市町村別の漁獲量で13年連続日本一と、苫小牧市の基幹漁業であるが、資源量の減少や、次期加入群の発生が近年あまり期待できないなど、将来的な課題を抱えている。

苫小牧の漁船は苫小牧港(国際拠点港湾)の漁港区に所属しており、8月中旬から12月初旬にかけて、道内外よりイカ釣漁船が多数来港し、漁港区狭隘化の問題解決を図る為、平成23年度には漁港区が拡張され、平成24年度には外来船休憩施設が整備されたことにより、イカ釣漁船の入港及び水揚げが伸びている。

近年の経済状況の悪化により、慢性的な魚価安の状況下に輪をかけて燃油及び資材費の高騰による漁労経費の増加や、地球環境の変化による、資源状況の変化など、漁業を取り巻く環境は大きな問題を抱えている。十分な漁業利益の確保が困難となっており、以前にも増して漁業者を取り巻く環境は厳しい現状にある。

(2) その他の関連する現状等

苫小牧港は、北海道最大の特定重要港湾として、日本有数の国際物流拠点に位置付けられている。苫小牧港漁港区はこのような国際拠点港湾の一面にあり、安心・安全な作業環境の確立や、流通、販売を含めた地域の活性化が求められ、産地としての魅力向上や、物流機能の優位性を確立するため、苫小牧漁業協同組合をはじめ、行政及び市民団体、NPO法人などで構成される地域協議会「苫小牧港漁港区将来ビジョン21」を設立し、漁港区を中心とした将来の地域活性化に向けて、ビジョン作りを進めているところである。

また、工業が基幹産業であることから、漁業の認知度が低く、より多くの方に苫小牧の漁業を知ってもらう為青年部による出前授業の開催や、女性部によるホッキ貝のPR活動など地域に向けた発信に取り組んでいる。その中でも、生産者・消費者の交流を図るために整備された体験交流施設(農林水産省都市農村共生・対流総合対策交付金にて平成26年9月建築)を利用し、女性部が主軸となって苫小牧で水揚げされた魚介類のさばき方や調理方法体験を開催することで、食育や地元鮮魚の消費拡大及び、未利用資源の有効利用に寄与することが期待されている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

当地域は工業が基幹産業でありながらも、物流機能の優位性など水産業に関しても大きな可能性を秘めている地域である。地域としての機能性を発揮し、漁港区を中心とした地域活性化を図り、地域経済の発展を図るとともに、水産業の基盤作りとして、水産資源の安定確保、魚価の向上、漁労経費の削減に係る対策に取り組むため、「浜の活力再生プラン」を策定し、地域活性化とともに漁業所得の向上による漁家経営の安定を目指す。

①水産資源の安定確保を図り、将来に向けた資源確保に取り組み、適正な資源管理及び漁場の管理・保全による資源維持並びに資源の増大を図る為、サケ稚魚の放流や胆振海岸保全施設である人工リーフ周辺漁場へのウニ種苗の放流を継続的に実施するほか、以下の内容に取り組む。

- ・ホッキ漁場における資源量調査に基づく漁獲制限量の設定
- ・マツカワ種苗放流による資源維持及び増大
- ・ホッキ漁場における外敵駆除及び漁場耕耘による資源の増大に向けた新たな取り組みの実施
- ・ホッキ漁場における次期加入群の確保に向けた調査を新たに実施
- ・新たに未利用資源の調査及び新規漁業の模索
- ・水産基盤整備事業による魚礁整備や産卵礁整備による資源の増大

②付加価値の向上、漁業利益の向上及び安定確保のため、以下の内容に取り組む。

- ・地域団体商標登録されている「苫小牧産ほっき貝」のブランド確立に向けた取り組みと付加価値向上
- ・ホッキまつりなどイベント開催による知名度アップと消費拡大
- ・地域協議会「苫小牧港漁港区将来ビジョン21」において漁港区の将来に向けたビジョンの策定及び漁港区施設整備による安全で効率的な操業の実現や衛生管理体制の構築
- ・蓄養施設の新たな施設整備による安定出荷技術の確立
- ・えりも以西栽培漁業推進協議会(えりも～渡島)におけるマツカワ魚価対策プロジェクトチームとの協力によるマツカワ(王鰈ブランド)魚価向上に向けた取り組みの検討・実施
- ・マツカワ活出荷の技術確立による付加価値の向上に向けた新たな取り組み
- ・活〆技術の普及促進、滅菌海水の使用、施水の徹底による鮮度向上への新たな取り組み
- ・新たに青年部による港内の海上清掃を行うことにより、漁業者の衛生管理への意識向上に取り組む

③漁業利益の安定的確保を目指し、漁労経費(特に漁業用燃油経費)の削減を図る為、以下の内容に取り組む。

- ・効率的な操業体制の指導による漁業用燃油経費の削減
- ・減速航行による省燃油活動の実施
- ・省エネ機器等の購入推進による漁業用燃油経費の削減
- ・漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進
- ・さけ定置漁業の協業化による操業経費の節減、経営の合理化を図り、経営改善に向けた取り組み

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・共同漁業権における規制・制限措置の設定
- ・マツカワの体長35cm未満の漁獲制限措置
- ・資源量調査による漁獲量の自主制限の設定(ホッキ)

(3) 具体的な取組内容(毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目(平成26年度)

以降、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて見直す。

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none">・ ほっき漁業者96名は、資源量調査や産卵地調査に基づき漁獲制限量を定め、将来に根付いた資源確保に努めるとともに、漁場の海底耕耘に加えて、新たに外敵となるハスノハカシパンの駆除に取り組むことによって効果的な資源の増大を目指し、安定生産に資する。 また、徹底した資源管理の下、地域団体商標登録「苫小牧産ほっき貝」のブランド力向上に向け、新たに蓄養設備を整備し、滅菌海水を利用した衛生管理対策に取り組むことに加えて、砂吐きの徹底化を通じて付加価値向上に取り組む。また、PR活動を実施し、全国各地での消費拡大を目指し、魚価の向上による収入増加を図る。・ かれい刺網漁業者63名及び漁協は、北海道に対して水産環境整備事業による周辺海域への魚礁等の整備促進を要請し、整備した施設の効果を高めるためマツカワの種苗放流を推進する。 また、付加価値向上のため、関係漁業団体で構成する「えりも以西栽培漁業推進協議会」のマツカワ魚価対策プロジェクトチームと協力して、マツカワのブランドである「王鰈」について出荷時期調整のために必要となる蓄養施設の整備や、活魚出荷のための出荷ルール(集荷サイズ、活魚水槽内の水温ルール)の統一化を図り、道外向けを中心としたマツカワの活魚出荷の拡大を図る。・ さけ定置網漁業者12名は、鮮度維持を徹底するため、現在1隻のみが実施している船上での活メヤ施氷による鮮度の均一化、魚体洗浄等における滅菌海水を用いた衛生管理の強化等の品質向上の取組を、他の全ての漁船でも実施するよう検討する。 さらに、近年、混獲により漁獲が増加しているブリについても、良質なものを選別し船上活メし、施氷方法の統一化とともに、滅菌海水を用い徹底した衛生管理を行うことで付加価値の向上を図ることとし、道外消費地向けに安定して出荷できるよう、最適な保存方法、輸送方法などを検討する。・ かにかご漁業者48名は、品質向上及び消費者ニーズへの対応に向けた新たな取組として、操業から出荷の過程を通じての水温管理(5℃以上8℃以下とする。)を全船・港湾内・全搬送車両で統一して実施することにより、低水温による出荷後の凍傷や足もげ毛がにの流通を防ぎ、販路拡大と付加価値の向上を図る。・ 全漁業者は、地域協議会「苫小牧港漁港区将来ビジョン21」を通じて屋根つき岸壁の施設整備を開発局に対して要請するとともに、漁業者自らも整備施設の衛生管理を徹底するよう港内清掃についてルールを決めて取り組む。加えて、地域協議会を通じて地域活性化に向けた将来ビジョンの策定を行うことにより、衛生管理体制を構築し、安心・安全な水産物の提供を目指す。・ 全漁業者は、苫小牧市浜とまちの元気共生・対流推進協議会と連携し、整備された体験交流施設を生産者・消費者の交流の場として活用を図るとともに、漁協においてもカジカやフジコ等の未利用資源の活用及び調理体験を女性部が取り組み、食育をはじめ、地元での鮮魚消費拡大を図る。・ 全漁業者は、苫小牧漁協や苫小牧市と連携し、札幌など大消費地への販売促進活動を行うための販売戦略を立案するとともに、ホッキ祭りなどのイベント開催や道の駅での販売促進を通じて知名度アップに取り組む。 <p>これらの取り組みにより、基準年より1.7%の収入向上を見込む。</p>
--------------	--

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業者は、省燃油活動推進事業の活用などにより、減速航行や漁場情報の共有及び船体清掃と機器・設備メンテナンスによる燃費向上の省燃油活動等に取り組む。 また、省燃油型エンジンへの換装や省エネ型漁船の建造などにより、漁業用燃油経費の削減に取り組む。 ・ ほっき漁業者は協業化を推進し、漁労経費の削減を目指す。 ・ さけ定置漁業者は協業化による操業に取り組み、生産体制を見直し漁労経費の削減を図る。 <p>これらの取り組みにより、基準年より1.1%の漁労経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省燃油活動推進事業(国) ・ 省エネ機器等導入推進事業(国) ・ 漁業経営セーフティーネット構築事業(国) ・ 都市農村共生・対流総合対策事業(国) ・ 水産環境整備事業(国) ・ 胆振海岸 直轄海岸保全施設整備事業(国) ・ 道産水産物消費拡大推進事業(道) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(マツカワ種苗放流事業補助金)(市) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(ほっき貝PR事業補助金)(市) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(苫小牧漁港ホッキまつり事業補助金)(市)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほっき漁業者96名は、資源量調査や産卵地調査に基づき漁獲制限量を定め、将来に根付いた資源確保に努めるとともに、漁場の海底耕耘に加えて、新たに外敵となるハスノハカシパンの駆除に取り組むことによって効果的な資源の増大を目指し、安定生産に資する。 また、徹底した資源管理の下、地域団体商標登録「苫小牧産ほっき貝」のブランド力向上に向け、新たに蓄養設備を整備し、滅菌海水を利用した衛生管理対策に取り組むことに加えて、砂吐きの徹底化を通じて付加価値向上に取り組む。また、PR活動を実施し、全国各地での消費拡大を目指し、魚価の向上による収入増加を図る。 ・ かれい刺網漁業者63名及び漁協は、北海道に対して水産環境整備事業による周辺海域への魚礁等の整備促進を要請し、整備した施設の効果を高めるためマツカワの種苗放流を推進する。 また、付加価値向上のため、関係漁業団体で構成する「えりも以西栽培漁業推進協議会」のマツカワ魚価対策プロジェクトチームと協力して、マツカワのブランドである「王鰈」について出荷時期調整のために必要となる蓄養施設の整備や、活魚出荷のための荷姿などの出荷ルールの統一化を図り、道外向けを中心に、マツカワの活魚出荷の一層の拡大を図る。 ・ さけ定置網漁業者12名は、鮮度維持を徹底するため、現在1隻のみが実施している船上での滅菌海水を用いた衛生管理の強化による品質向上の取組を、他の全ての漁船でも実施するよう検討する。 さらに、近年、混獲により漁獲が増加しているブリについても、良質なものを選別し船上活〆し、施氷方法の統一化とともに、滅菌海水を用い徹底した衛生管理を行うことで付加価値の向上を図ることとし、道外消費地向けに安定して出荷できるよう、最適な保存方法、輸送方法などの実現を目指す。 ・ にかご漁業者48名は、品質向上及び消費者ニーズへの対応に向けた新たな取組として、操業から出荷の過程を通じての水温管理(5℃以上8℃以下とする。)を全船・港湾内・全搬送車両で統一して実施することにより、低水温による出荷後の凍傷や足もげ毛がにの流通を防ぎ、販路拡大と付加価値の向上を図る。 ・ 全漁業者は、地域協議会「苫小牧港漁港区将来ビジョン21」を通じて屋根つき岸壁の施設整備を開発局に対して要請するとともに、漁業者自らも整備施設の衛生管理を徹底するよう港内清掃についてルールを決めて取り組む。加えて、地域協議会を通じて地域活性化に向けた将来ビジョンの策定を行うことにより、衛生管理体制を構築し、安心・安全な水産物の提供を目指す。 ・ 全漁業者は、苫小牧市や苫小牧漁協と連携し、整備された体験交流施設を生産者・消費者の交流の場として活用を図るとともに、漁協においてもカジカやフジコ等の未利用資源の活用及び調理体験を女性部が取り組み、食育をはじめ、地元での鮮魚消費拡大を図る。 ・ 全漁業者は、苫小牧漁協や苫小牧市と連携し、策定した販売戦略に基づき、札幌など大消費地への販売促進活動を行うとともに、ホッキ祭りなどのイベント開催を通じて知名度アップに取り組む。 <p>これらの取り組みにより、基準年より1.7%の収入向上を見込む。</p>
---------------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業者は、省燃油活動推進事業の活用などにより、減速航行や漁場情報の共有及び船体清掃と機器・設備メンテナンスによる燃費向上の省燃油活動等に取り組む。 また、省燃油型エンジンへの換装や省エネ型漁船の建造などにより、漁業用燃油経費の削減に取り組む。 ・ ほっき漁業者は協業化を推進し、漁労経費の削減を目指す。 ・ さけ定置漁業者は協業化による操業に取り組み、生産体制を見直し漁労経費の削減を図る。 <p>これらの取り組みにより、基準年より1.1%の漁労経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネ機器等導入推進事業(国) ・ 漁業経営セーフティネット構築事業(国) ・ 都市農村共生・対流総合対策事業(国) ・ 水産環境整備事業(国) ・ 胆振海岸 直轄海岸保全施設整備事業(国) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(マツカワ種苗放流事業補助金)(市) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(ほっき貝PR事業補助金)(市) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(苫小牧漁港ホッキまつり事業補助金)(市)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほっき漁業者96名は、資源量調査や産卵地調査に基づき漁獲制限量を定め、将来に根付いた資源確保に努めるとともに、漁場の海底耕耘に加えて、新たに外敵となるハスノハカシパンの駆除に取り組むことによって効果的な資源の増大を目指し、安定生産に資する。 また、徹底した資源管理の下、地域団体商標登録「苫小牧産ほっき貝」のブランド力向上に向け、新たに蓄養設備を整備し、滅菌海水を利用した衛生管理対策に取り組むことに加えて、砂吐きの徹底化を通じて付加価値向上に取り組む。また、PR活動を実施し、全国各地での消費拡大を目指し、魚価の向上による収入増加を図る。 ・ かれい刺網漁業者63名及び漁協は、北海道に対して水産環境整備事業による周辺海域への魚礁等の整備促進を要請し、整備した施設の効果を高めるためマツカワの種苗放流を推進する。 また、付加価値向上のため、関係漁業団体で構成する「えりも以西栽培漁業推進協議会」のマツカワ魚価対策プロジェクトチームと協力して、マツカワのブランドである「王鰈」について出荷時期調整のために必要となる蓄養施設の整備や、活魚出荷のための荷姿などの出荷ルールの統一化を図り、道外向けを中心に、マツカワの活魚出荷の一層の拡大を図る。 ・ さけ定置網漁業者12名は、鮮度維持を徹底するため、滅菌海水を用いた衛生管理の強化による品質向上に取り組む。 さらに、近年、混獲により漁獲が増加しているブリについても、良質なものを選別し船上活〆し、施氷方法の統一化とともに、滅菌海水を用い徹底した衛生管理を行うことで付加価値の向上を図ることとし、道外消費地向けに安定して出荷できるよう、最適な保存方法、輸送方法などの実現を目指す。 ・ かにかご漁業者48名は、品質向上及び消費者ニーズへの対応に向けた新たな取組として、操業から出荷の過程を通じての水温管理(5℃以上8℃以下とする。)を全船・港湾内・全搬送車両で統一して実施することにより、低水温による出荷後の凍傷や足もげ毛がにの流通を防ぎ、販路拡大と付加価値の向上を図る。 ・ 全漁業者は、地域協議会「苫小牧港漁港区将来ビジョン21」を通じて屋根つき岸壁の施設整備を開発局に対して要請するとともに、漁業者自らも整備施設の衛生管理を徹底するよう港内清掃についてルールを決めて取り組む。加えて、地域協議会を通じて地域活性化に向けた将来ビジョンの策定を行うことにより、衛生管理体制を構築し、安心・安全な水 ・ 全漁業者は、苫小牧市や苫小牧漁協と連携し、整備された体験交流施設を生産者・消費者の交流の場として活用を図るとともに、漁協においてもカジカやフジコ等の未利用資源の活用及び調理体験を女性部が取り組み、食育をはじめ、地元での鮮魚消費拡大を図る。 ・ 全漁業者は、苫小牧漁協や苫小牧市と連携し、策定した販売戦略に基づき、札幌など大消費地への販売促進活動を行うとともに、ホッキ祭りなどのイベント開催を通じて知名度アップに取り組む。 <p>これらの取り組みにより、基準年より1.7%の収入向上を見込む。</p>
---------------------	--

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業者は、省燃油活動推進事業の活用などにより、減速航行や漁場情報の共有及び船体清掃と機器・設備メンテナンスによる燃費向上の省燃油活動等に取り組む。 また、省燃油型エンジンへの換装や省エネ型漁船の建造などにより、漁業用燃油経費の削減に取り組む。 ・ ほっき漁業者は協業化を推進し、漁労経費の削減を目指す。 ・ さけ定置漁業者は協業化による操業に取り組み、生産体制を見直し漁労経費の削減を図る。 <p>これらの取り組みにより、基準年より1.1%の漁労経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティーネット構築事業(国) ・ 都市農村共生・対流総合対策事業(国) ・ 水産環境整備事業(国) ・ 胆振海岸 直轄海岸保全施設整備事業(国) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(マツカワ種苗放流事業補助金)(市) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(ほっき貝PR事業補助金)(市) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(苫小牧漁港ホッキまつり事業補助金)(市)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほっき漁業者96名は、資源量調査や産卵地調査に基づき漁獲制限量を定め、将来に根付いた資源確保に努めるとともに、漁場の海底耕耘に加えて、新たに外敵となるハスノハカシパンの駆除に取り組むことによって効果的な資源の増大を目指し、安定生産に資する。 また、徹底した資源管理の下、地域団体商標登録「苫小牧産ほっき貝」のブランド力向上に向け、新たに蓄養設備を整備し、滅菌海水を利用した衛生管理対策に取り組むことに加えて、砂吐きの徹底化を通じて付加価値向上に取り組む。また、PR活動を実施し、全国各地での消費拡大を目指し、魚価の向上による収入増加を図る。 ・ かれい刺網漁業者63名及び漁協は、北海道に対して水産環境整備事業による周辺海域への魚礁等の整備促進を要請し、整備した施設の効果を高めるためマツカワの種苗放流を推進する。 また、付加価値向上のため、関係漁業団体で構成する「えりも以西栽培漁業推進協議会」のマツカワ魚価対策プロジェクトチームと協力して、マツカワのブランドである「王鰈」について出荷時期調整のために必要となる蓄養施設の整備や、活魚出荷のための荷姿などの出荷ルールの統一化を図り、道外向けを中心に、マツカワの活魚出荷の一層の拡大を図る。 ・ さけ定置網漁業者12名は、鮮度維持を徹底するため、滅菌海水を用いた衛生管理の強化による品質向上に取り組む。 さらに、近年、混獲により漁獲が増加しているブリについても、良質なものを選別し船上活〆し、施氷方法の統一化とともに、滅菌海水を用い徹底した衛生管理を行うことで付加価値の向上を図ることとし、道外消費地向けに安定して出荷できるよう、最適な保存方法、輸送方法などの実現を目指す。 ・ かにかご漁業者48名は、品質向上及び消費者ニーズへの対応に向けた新たな取組として、操業から出荷の過程を通じての水温管理(5℃以上8℃以下とする。)を全船・港湾内・全搬送車両で統一して実施することにより、低水温による出荷後の凍傷や足もげ毛がにの流通を防ぎ、販路拡大と付加価値の向上を図る。 ・ 全漁業者は、地域協議会「苫小牧港漁港区将来ビジョン21」を通じて屋根つき岸壁の施設整備を開発局に対して要請するとともに、漁業者自らも整備施設の衛生管理を徹底するよう港内清掃についてルールを決めて取り組む。加えて、地域協議会を通じて地域活性化に向けた将来ビジョンの策定を行うことにより、衛生管理体制を構築し、安心・安全な水産物の提供を目指す。 ・ 全漁業者は、苫小牧市や苫小牧漁協と連携し、整備された体験交流施設を生産者・消費者の交流の場として活用を図るとともに、漁協においてもカジカやフジコ等の未利用資源の活用及び調理体験を女性部が取り組み、食育をはじめ、地元での鮮魚消費拡大を図る。 ・ 全漁業者は、苫小牧漁協や苫小牧市と連携し、策定した販売戦略に基づき、札幌など大消費地への販売促進活動を行うとともに、ホッキ祭りなどのイベント開催を通じて知名度アップに取り組む。 <p>これらの取り組みにより、基準年より1.7%の収入向上を見込む。</p>
---------------------	--

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業者は、省燃油活動推進事業の活用などにより、減速航行や漁場情報の共有及び船体清掃と機器・設備メンテナンスによる燃費向上の省燃油活動等に取り組む。 また、省燃油型エンジンへの換装や省エネ型漁船の建造などにより、漁業用燃油経費の削減に取り組む。 ・ ほっき漁業者は協業化を推進し、漁労経費の削減を目指す。 ・ さけ定置漁業者は協業化による操業に取り組み、生産体制を見直し漁労経費の削減を図る。 <p>これらの取り組みにより、基準年より1.1%の漁労経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市農村共生・対流総合対策事業(国) ・ 水産環境整備事業(国) ・ 胆振海岸 直轄海岸保全施設整備事業(国) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(マツカワ種苗放流事業補助金)(市) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(ほっき貝PR事業補助金)(市) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(苫小牧漁港ホッキまつり事業補助金)(市)

5年目(平成30年度)

取り組みの最終年度であり、前年度に引き続き行方が、目標達成が確実なものとなるよう、プランの取り組み状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none">・ ほっき漁業者96名は、資源量調査や産卵地調査に基づき漁獲制限量を定め、将来に根付いた資源確保に努めるとともに、漁場の海底耕耘に加えて、新たに外敵となるハスノハカシパンの駆除に取り組むことによって効果的な資源の増大を目指し、安定生産に資する。・ また、徹底した資源管理の下、地域団体商標登録「苫小牧産ほっき貝」のブランド力向上に向け、新たに蓄養設備を整備し、滅菌海水を利用した衛生管理対策に取り組むことに加えて、砂吐きの徹底化を通じて付加価値向上に取り組む。また、PR活動を実施し、全国各地での消費拡大を目指し、魚価の向上による収入増加を図る。・ かれい刺網漁業者63名及び漁協は、北海道に対して水産環境整備事業による周辺海域への魚礁等の整備促進を要請し、整備した施設の効果を高めるためマツカワの種苗放流を推進する。・ また、付加価値向上のため、関係漁業団体で構成する「えりも以西栽培漁業推進協議会」のマツカワ魚価対策プロジェクトチームと協力して、マツカワのブランドである「王鰈」について出荷時期調整のために必要となる蓄養施設の整備や、活魚出荷のための荷姿などのお荷ルールの統一化を図り、道外向けを中心に、マツカワの活魚出荷の一層の拡大を図る。・ さけ定置網漁業者12名は、鮮度維持を徹底するため、滅菌海水を用いた衛生管理の強化による品質向上に取り組む。 <p>さらに、近年、混獲により漁獲が増加しているブリについても、良質なものを選別し船上活〆し、施水方法の統一化とともに、滅菌海水を用い徹底した衛生管理を行うことで付加価値の向上を図ることとし、道外消費地向けに安定して出荷できるよう、最適な保存方法、輸送方法などの実現を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none">・ にかご漁業者48名は、品質向上及び消費者ニーズへの対応に向けた新たな取組として、操業から出荷の過程を通じての水温管理(5℃以上8℃以下とする。)を全船・港湾内・全搬送車両で統一して実施することにより、低水温による出荷後の凍傷や足もげ毛がにの流通を防ぎ、販路拡大と付加価値の向上を図る。・ 全漁業者は、地域協議会「苫小牧港漁港区将来ビジョン21」を通じて屋根つき岸壁の施設整備を開発局に対して要請するとともに、漁業者自らも整備施設の衛生管理を徹底するよう港内清掃についてルールを決めて取り組む。加えて、地域協議会を通じて地域活性化に向けた将来ビジョンの策定を行うことにより、衛生管理体制を構築し、安心・安全な水産物の提供を目指す。・ 全漁業者は、苫小牧市や苫小牧漁協と連携し、整備された体験交流施設を生産者・消費者の交流の場として活用を図るとともに、漁協においてもカジカやフジコ等の未利用資源の活用及び調理体験を女性部が取り組み、食育をはじめ、地元での鮮魚消費拡大を図る。・ 全漁業者は、苫小牧漁協や苫小牧市と連携し、策定した販売戦略に基づき、札幌など大消費地への販売促進活動を行うとともに、ホッキ祭りなどのイベント開催を通じて知名度アップに取り組む。 <p>これらの取り組みにより、基準年より2.0%の収入向上を見込む。</p>
--------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業者は、省燃油活動推進事業の活用などにより、減速航行や漁場情報の共有及び船体清掃と機器・設備メンテナンスによる燃費向上の省燃油活動等に取り組む。 また、省燃油型エンジンへの換装や省エネ型漁船の建造などにより、漁業用燃油経費の削減に取り組む。 ・ ほっき漁業者は協業化を推進し、漁労経費の削減を目指す。 ・ さけ定置漁業者は協業化による操業に取り組み、生産体制を見直し漁労経費の削減を図る。 <p>これらの取り組みにより、基準年より1.1%の漁労経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティーネット構築事業(国) ・ 都市農村共生・対流総合対策事業(国) ・ 水産環境整備事業(国) ・ 胆振海岸 直轄海岸保全施設整備事業(国) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(マツカワ種苗放流事業補助金)(市) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(ほっき貝PR事業補助金)(市) ・ 苫小牧市水産業振興対策事業補助金(苫小牧漁港ホッキまつり事業補助金)(市)

(4)関係機関との連携

連携機関

・ ほっき資源の安定的確保および次期加入郡の確保に向けた資源量調査、産卵調査への取り組みを胆振地区水産技術普及指導所、地方独立行政法人北海道立総合研究機構栽培水産試験場、公益社団法人北海道栽培漁業振興公社と連携し、情報共有を図り、実施する。また、産卵調査においては、東海大学生物学部海洋生物学科も調査協力のため連携を図る。

・ マツカワの魚価向上のため、マツカワ魚価対策プロジェクトチームリーダーとして、えりも以西栽培漁業推進協議会、北海道庁、えりも以西地域振興局、北海道ぎょれんと連携を図り、魚価向上を目指す。

・ さけ回帰率向上のため、胆振管内さけます増殖事業協会と連携を図り、ふ化事業に取り組む。

・ 漁港区の将来に向けたビジョンの策定及び漁港区施設整備による安全で効率的な操業の実現に向け地域協議会「苫小牧港将来ビジョン21」の構成メンバーである、国土交通省北海道開発局、北海道胆振総合振興局、苫小牧市、苫小牧港管理組合、NPO法人マリネットワーク、女性みなと街づくり苫小牧、苫小牧市教育委員会、苫小牧聴力障害者協会、苫小牧手話の会との連携により、漁港区を中心とした地域活性化のため、連携を図る。

4 目標

(1)数値目標

漁業所得の向上	%以上	基準年	平成 25年度	:漁業所得	千円
		目標年	平成 30年度	:漁業所得	千円

(2)上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランの関係性
省燃油活動推進事業	漁業者が省エネの意識向上を図り、省燃油活動に取り組むことにより、漁業経費が削減され浜の活力再生プランの効果が高められる。
省エネ機器導入推進事業	漁業者が省エネの意識向上を図り、省エネ機器導入の推進を図り、燃油消費量が削減され浜の活力再生プランの効果が高められる。
漁業経営セーフティーネット構築事業	漁業経営セーフティーネット構築事業の加入推進を図り、燃油高騰への影響緩和による漁業経営安定に繋がることから、浜の活力再生プランの効果が高められる。
都市農村共生・対流総合対策事業	体験交流施設を利用した、体験プログラムの実施により、未利用資源の利活用に取り組み、食育及び消費拡大により、浜の活力再生プランの効果が高められる。
水産環境整備事業	水産環境整備事業により魚礁整備や産卵礁整備を行うことで、効果的な資源の増大を図り、水揚げ数量の増加により、浜の活力再生プランの効果が高められる。
胆振海岸直轄海岸保全施設整備事業	胆振海岸直轄海岸保全施設整備事業による人工リーフの施設整備により、人工リーフ周辺漁場の有効活用を行うため、ウニの種苗放流による再生産に取り組むことにより、浜の活力再生プランの効果が高められる。
道産水産物消費拡大推進事業	漁業者の生産コストに見合った魚価の形成を促すため、付加価値向上を促進し、魚価が下落している道産水産物の消費拡大による、漁業収入の向上により、浜の活力再生プランの効果が高められる。
苫小牧市水産業振興対策事業補助金	苫小牧市がマツカワの種苗放流事業における放流尾数割の負担金や、ほっき貝PR事業に必要な費用に対し、補助金を支出し、水産業振興に寄与することにより浜の活力再生プランの効果が高められる。